

有明海再生技術コンサルタント事業の実施について(ご案内)

当機構では活動の一環として、支援会員の皆様に対し、今年度もコンサルタント事業を実施します。

この事業は、支援会員の皆様が現在持っておられる様々な技術をもとに、有明海再生機構正会員の研究者が、有明海再生に関連する調査・研究や技術開発を皆様と一体となって実施するなど、皆様の事業活動を支援していく方策について検討することを目的として行うものです。

つきましては、当機構正会員の研究者への要望・相談事項等がございます場合、当機構までお知らせいただければ幸いです。コンサルティング等のご相談は年間を通して受け付けておりますのでご活用下さい。

有明海講演会～有明海の貝類の過去・未来～開催のお知らせ

■日時 平成21年9月5日(土) 13:30～16:30

■会場 熊本県立大学 講義室棟 中会議室2 (熊本市月出3丁目1番100号)

■テーマ 「有明海の資源となる生物・特にアサリ、ハマグリ、サルボウ、タイラギなどについて」

熊本県立大学教授 堤 裕昭

**入場
無料**

「アメリカで有名になったクマモトオイスターについて」

熊本県水産研究センター養殖研究部長 中野 平二

平成21年度有明海研究意見交換会を開催しました

平成21年5月24日(日)に佐賀大学都市工学科大講義室にて「平成21年度有明海研究意見交換会」を開催しました。当日は県内外から大学、企業の研究者、一般の皆様や行政関係者など約60名の方々にご参加いただくことができました。

第一部では、当機構が平成19年度に有明海再生に向けた環境改善技術の開発等に関する研究に対して必要な経費を助成した研究、平成20年度に委託した研究の発表を行いました。

まず、九州大学大学院の下山正一助教からは平成19年度助成研究と干潟分科会の成果とをひっくるめて「有明海干潟における貝類漁場の地質学的研究—豊かなアサリ漁場の地史を解明する—」と題して発表いただきました。

次に、九州大学大学院工学研究院の齋田倫範学術研究員から潮流勉強会で委託研究した成果について「護岸建設による有明海の潮流減少と成層化について」と題して発表いただきました。

続いて、佐賀大学の田端正明客員研究員より「海水中の鉄の濃度変化と珪藻プランクトンの発生との因果関係」と題して平成19年度の助成研究の発表をいただきました。

第二部では、今年度、佐賀県から受託を予定している「有明海再生方策検討事業」で検討の対象となる有明海湾奥部の再生策についての意見交換会を行いました。

シュミレーションで検討する再生策の提案を呼びかけたところ、調整池排水の排水方法の工夫が再生策の一つになるとの提案がありました。



【参考】有明海再生方策検討事業とは

これまでの研究や取組で提案されている再生策の具体例を実施した時の潮流の変化、赤潮・貧酸素水塊の発生状況などについて数値解析などにより検証を行い、地域毎の特性に応じた効果的な再生策を検討し、有明海湾奥部の再生に寄与するもの



平成21年度有明海再生機構の事業計画を紹介します。

平成21年度の事業計画は、通常総会（平成21年5月24日）を開催し、次のとおり実施することとしました。

平成21年度事業計画概要

実施時期 (予定)	事業名	事業内容
年間	広報関係	○機構パンフレット作成 ○ニューズレター(年4回) ○活動年報作成
年間	分科会 研究企画委員会活動	○分科会等の開催
5月	理事会・総会	20年度収支決算、21年度事業計画等の議決
5月	有明海 研究意見交換会	○有明海再生機構が助成・委託した研究の成果発表 有明海再生方策検討事業に用いる数値解析モデルと検討する個別再生策についての意見交換
6月～	公募型研究の実施	○有明海再生に向けた環境改善技術の開発等に関する研究を推進する為に、研究者や企業が実施する研究費の一部を助成する。
6月～	再生技術開発等 コンサルティング事業	○支援会員企業からの有明海環境改善技術等の具体的なテーマについて技術相談事業を行う。
	有明海講座の開催	○有明海の自然、生態、文化、歴史、環境問題等を題材とする公開講座を開催し、広く一般県民に対して有明海の全容を伝える。 ・回数 年1回開催 ・対象 会員・一般 ・定員 50～100人以内
	シンポジウムの開催	○有明海再生に向けたシンポジウムの開催
	地球環境基金 助成事業	○有明海再生に向けてのカキ礁復元を軸とした活動を行う(20～22年度計画)
	調査・研究の実施	○他の研究機関では未実施又は実施し難い分野について、再生に向けた検討の基礎となる調査研究を実施する。 ①有明海再生方策検討事業(佐賀県との協働) ②海況に関する調査研究(潮流解析勉強会)
	有明海干潟・浅海域における底質の物質循環に関する調査研究(佐賀県)	○有明海の干潟・浅海域の底質を採取分析し、有明海の過去から現在までの底質環境の変遷を把握することにより、有明海の望ましい姿を再現する。
	平成21年度有明海 八代海総合調査推進業務	○有明海・八代海の両海域の調査研究の総合的な推進のため、関係機関間の調整能力の強化、調査のマスタープランの策定等を行う。(独立行政法人水産総合研究所及びいであ(株)との三者による受託)
	有明海再生方策検討事業	○有明海再生のシミュレーションモデルを選定し、その再生策の評価検討を行うことにより、有明海の総合的再生策の提言を行う。
	有明海データベースの 情報整備	○20年度に構築した環有明海環境情報データベースに新たな情報整備を行う。

カキ礁復元実験開始レポート

当機構では平成20年度から、独立行政法人地球環境基金の助成事業として、「有明海再生に向けてのカキ礁復元を軸とした活動」を行っております。

従来、有明海にはカキ礁が多く存在していましたが、ノリ養殖の発展と共に広範囲が除去された歴史や、近年のナルトビエイの食害、環境の悪化で群生しているカキ礁はあまり多くはありません。

このような環境のなか、2年目の今年は実際にカキ礁の復元を試みる活動をはじめました。

今回は、4月28日に行ったカキ礁復元の為のひび竹、稚貝設置の様子について、報告したいと思います。実験区画は、作業協力を依頼している佐賀県有明海漁業協同組合大詫間支所の組合員の方々と協議し決定しました。(図1)

設置方法はひび竹の設置と稚貝の直まきを中心におこないました。

そのあと、実験箇所の子物の育成状況を調べるためコデラート生物用枠(金枠)を使いサンプリングをしました。

結果については、2箇所のうちB地点では、テッポウエビ、ウネナシトマヤガイ、カキ、多毛類の生息が確認できましたが、ほとんどが貝殻で、生き物が少なくなっている現状をひしひしと感じました。A地点はほとんどが泥で、中に貝殻が混じっているという状況でした。

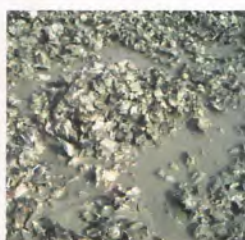
カキの生育状況や周辺の生物の観察を通し、カキ礁の働きや、重要性を情報発信し、周辺住民への啓発活動へと活かしていきたいと思ひます。



図1： かきひび養殖区画5の中に設置 (A地点)、区画6の中に設置 (B地点)



ひび竹とカキの稚貝



ひび竹接地面の様子



ひび竹設置の様子



ひび竹設置の様子



接地面のサンプリングの様子

平成21年度有明海再生に関する研究等助成事業の採択結果報告

有明海再生に向けた環境改善技術の開発に対して助成を行う公募型研究助成事業について平成21年7月11日に選定委員会を開催し、4件の応募の中から次の1件を採択しました。

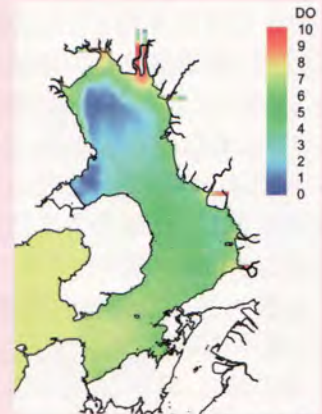
No.	事業名(研究テーマ)	実施者
1	アントラキノンによる硫化水素発生抑制作用と火山灰土壌によるリン吸着作用を組み合わせた沿岸環境保全技術の効果と安全性の評価	和田 実 長崎大学大学院生産科学研究科 准教授

支援会員の活動紹介 (有明海の再生を願い当機構の活動を支援してくださっている会員の皆様)

第8号 いであ株式会社九州支店 様

ーいであ九州は有明海再生の総合マネジメントに取り組んでいますー

当社は、社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタントとして、地球環境を保全し、健全で恵み豊かな環境の恵沢を次世代に引き継ぎ、持続可能な社会の維持・発展及び望ましい環境の創造に寄与することを基本理念としております。九州支店では、有明海的环境保全、環境創造に資するため、研究・開発、環境事業並びに環境に配慮した社会資本整備に努め、地域社会に貢献しております。現在は、有明海及び八代海を再生するための特別措置に関する法律に基づき、基礎的モニタリング調査、問題の解明、対策検討のための現地実験、対策効果の検討およびこれらを取りまとめた再生のための総合計画づくりを行い、有明海的环境保全、改善並びに水産資源の回復に貢献しております。有明海は国民的資産であり、当支店におきましても身近な海であることから、今後とも豊かな海の再生を目指して頑張っていきたいと考えております。



(有明海のDO図)

<お問い合わせ>

いであ株式会社九州支店 福岡市東区東浜一丁目5番12号 TEL: 092-641-7878 ホームページ: <http://www.ideacon.jp/>

正会員のご紹介

有明海再生に関する研究を学術的に行う大学等の研究者で構成される正会員に、新たに入会していただきました。

■和田 実 准教授 (長崎大学大学院生産科学研究科)

海洋微生物学が主な研究分野であり、これまでに「発光細菌の生理、種の多様性パターン、魚類との共生関係」、「ベントスの巣穴形成による微生物群集への影響」、「水中および底質の有機物汚染による微生物群集への影響と浄化促進方法の開発」などの課題に取り組んできました。

昨年4月に東京大学海洋研究所から長崎大学に赴任し、これまでの課題に加えて、有明海の微生物群集の構造と機能の解明を目指して研究を開始しました。豊かな海に囲まれ、水産業が盛んなこの地で教育、研究を始められることは、自分にとってまたとない好機だと考えています。皆様にご教示を頂きながら、有明海の保全、再生に少しでも貢献し、この地ならではの教育・研究を展開したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



支援会員募集のご案内 ※詳しくは事務局までお問い合わせください。

有明海再生機構では、当機構の趣旨に御賛同いただき、活動を支援して下さる支援会員(企業・団体・個人)を募集しております。

年会費: **企業・団体…一口 5万円** **個人…一口 1万円**

編集後記

先日、干潟よか公園で開催された『ふるさとの森づくりin干潟よか公園』(主催干潟よか公園森づくり実行委員会、九州電力株佐賀支店)に参加しました。有明海の干潟を眺めながら植樹を行い、この植樹を機に有明海再生に関心を持つ方が増えることを願いました。(く)



発行

NPO法人 有明海再生機構事務局

〒840-0041 佐賀県佐賀市城内1-5-14 佐賀県自治会館4階

TEL (FAX兼用): 0952-26-7050

E-mail: npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://www.npo-ariake.jp/>

※H20.8月、事務所移転で住所が変わりました。電話(FAX)はそのままで。